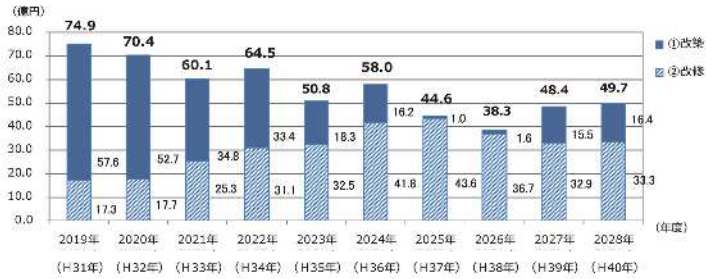


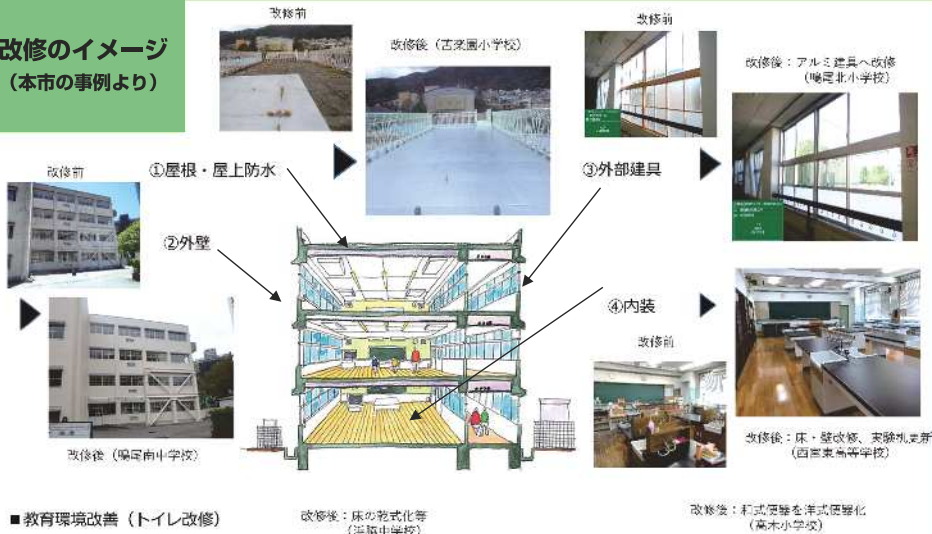
第5次西宮市総合計画期間中の事業計画

(2019年度(H31年度)～2028年度(H40年度))



- 1) 改築について
- 5次総期間の改築に係る事業費は約 248 億円。
 - 既に事業化されている香榎園小学校、春風小学校、安井小学校、西宮養護学校、瓦木中学校に加え、大社中学校についても改築を検討する予定です。
- 2) 改修について
- 改修にかかる事業費は約 312 億円。
 - 部位ごとに改修周期と費用を算出後、学校運営への影響等を考慮し、できる限り部位をまとめて改修する調整を行いました。
 - 新たに実施する長寿命化改修、大規模改修工事については、2019年度(H31年度)より次の学校で事業に着手する予定(工事は2020年度(H32年度)の予定)です。
高木小学校(体育館)・甲東小学校(北東棟)・生瀬小学校(体育館)

改修のイメージ (本市の事例より)



■ 教育環境改善 (トイレ改修)



西宮市学校施設長寿命化計画 (概要版)

■ 計画の目的

- 1 学校の安全性を確保しつつ、予算の平準化、トータルコストの縮減を図ります。
- 2 施設の良い状態を維持し、よりよい教育環境を確保します。
- 3 効果的・効率的に長寿命化を図り、改築や改修、施設の更新の優先順位付けを行います。

■ 対象期間

2019年度(H31年度)から2058年度(H70年度)の40年間
※5年毎に見直しを行います。

■ 対象施設

小学校 41 校、中学校 20 校、特別支援学校 1 校、高等学校 2 校、幼稚園 18 園
(712 棟 54.7 万㎡) ※2019年(H31年)2月現在

Q. 長寿命化とは?

A. これまで築50年から60年で改築していましたが、施設をできるだけ長く使用し、有効利用する考え方のことです。

■ 施設を長く利用するためには、次の3つの条件を満たす必要があります。

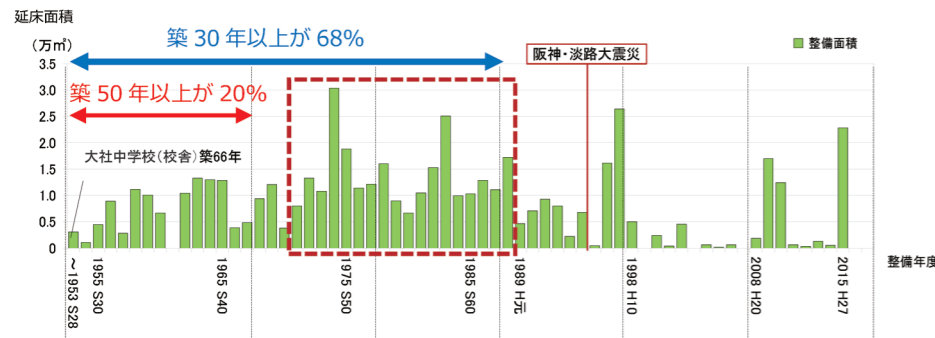
- ① 建物を支える骨格(柱や梁)の健全性が確保されていること
- ② 骨格以外の内外装や設備等が良好で、安全・安心な状態にあること
- ③ 骨格以外の機能や性能が求められる水準にあること

平成31年2月
西宮市教育委員会

現在の学校施設を取り巻く状況 キーワード

その1 「迫る施設の老朽化」

- 全体の68%が築30年以上、全体の20%が築50年以上と築年の古いものが多く、老朽化が進んでいます。
- 1971~1988年に全体の46%が建設されており、今後、一斉に改修・改築を迎えることとなり、費用の平準化を検討する必要があります。



その2 「進行する施設部位の劣化」

- これまでの、経年による劣化が進行してから部位ごとに改修することがほとんどでした。

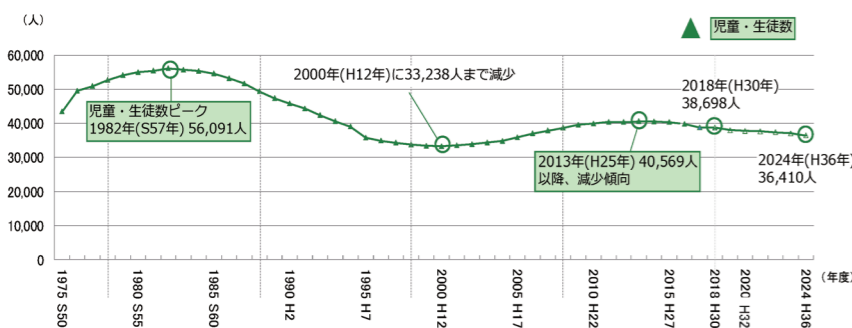
(劣化調査の結果)

- 施設そのものへの影響が大きい①屋根・屋上防水、②外壁の劣化が進んでいます。
- ①②のほか、内装や設備の劣化も見られます。

| No. | 部位 | 良好 | 部分劣化 | 広範囲劣化 | 著しい劣化 |
|-----|------------|-----|------|-------|-------|
| ① | 屋根・屋上防水 | 26% | 33% | 27% | 14% |
| ② | 外壁 | 19% | 54% | 22% | 5% |
| ③ | 外部建具 | 14% | 63% | 22% | 1% |
| ④ | 内装 | 12% | 43% | 41% | 4% |
| ⑤ | 冷暖房設備 | 65% | 6% | 13% | 16% |
| ⑥ | 給排水衛生・ガス設備 | 12% | 43% | 45% | |
| ⑦ | 電気設備 | 10% | 10% | 80% | |
| ⑧ | プール | 17% | 6% | 77% | |
| ⑨ | エレベーター | 68% | 30% | 2% | |
| ⑩ | 給水装置 | 7% | 6% | 87% | |
| ⑪ | 受変電設備 | 35% | 39% | 26% | |
| ⑫ | グラウンド | 10% | 45% | 45% | |

その3 「更なる少子化」

- 児童・生徒数は、1982(S57)年の5.6万人がピークであり、2000(H12)年に3.3万人まで減少、その後、一旦増加に転じ、2013(H25)年の4.1万人を境に減少しています。
- 今後も減少が続く見込みであり、転用可能教室が生じることから、今後は教室の有効活用を検討する必要があります。



学校施設整備に関する今後の方針

基本方針1: 「改築中心」から「長寿命化」・「予防保全」へ

1 施設の使用年限

- 子供たちの安全・安心を確保しつつ、使用年限を延長します。
- 施設の使用年限を原則80年とし、施設整備を行います。

2 改修の考え方と標準周期

- 施設を長く使うために、改修の周期を定め、不具合や支障が生じる前に計画的に対応する予防保全的な改修を行います。
- (築後25年目)
機能を回復させるための大規模改修工事を実施します。
- (築後50年目)
機能回復に加え、耐久性の向上、教育環境の改善を行う長寿命化改修工事を実施します。

基本方針2: 時代の変化、社会的要請に応じた教育環境整備

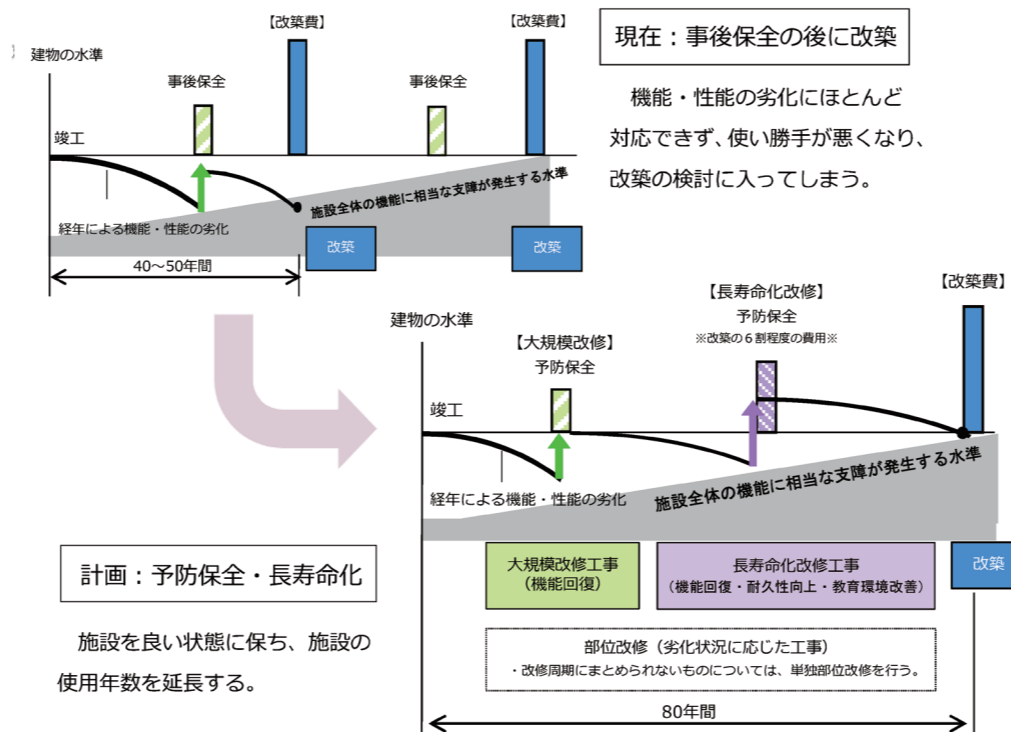
1 良好な教育環境・機能の整備

- 学習指導要領の改定、インクルーシブ教育システム、防災機能の充実などに応じるため、必要な諸室や機能を整備します。

2 施設の有効活用

- 少子化に伴い、学級数が減少している学校について、転用可能な教室を他の公共施設へと用途を変え、有効活用していきます。

【長寿命化のイメージ】



長寿命化への課題

① 築年数の異なる棟

- 築年数の異なる棟を複数持つ学校が多く、古い棟から順番に改築・改修すると、工事期間が長期におよび、非効率となります。また、工事中の仮設教室等の一時的費用がその都度かかるなど、学校運営面でも費用面でも負担大です。

② 劣化状況がバラバラ

- これまで部位ごとの改修であったため、同じ築年数でも改修履歴等により劣化状況が異なります。

③ 費用が一時期に集中

- 全ての棟を80年まで使用すると、既存施設の整備分布がそのまま改築・改修費用に反映されます。一時期に費用が集中すると、予算面だけではなく、事業者の確保等、施工面でも事業実施が困難となります。

西宮市の長寿命化計画の考え方

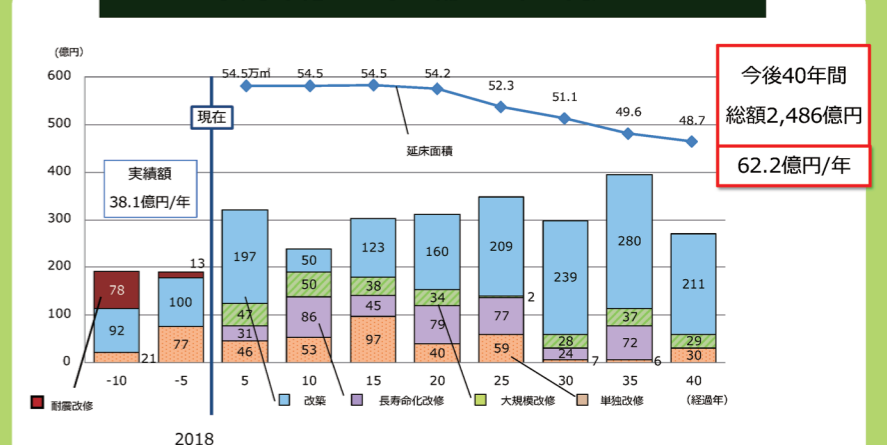
■ 改築時期を集約

施設を原則80年使用することとしますが、各学校の異なる築年数の校舎を一定期間に集約して改築します。

■ 費用対効果を考慮

トータルコストの削減のため、学校ごとに最もトータルコストが低くなる時期を算出、施設の使用年数を決定します。

長寿命化による整備コストの見通し



従来(築50年で改築)と比較すると

40年間の事業費総額 ▲354億円(約12%減)
 (年平均の事業費) ▲8.8億円